慶應義塾大学ビジネススクール

２００４年度 秋学期「ケースメソッド教授法」
「平成 16 年度経済産業省委託産業人材育成事業による実証授業」

授業シラバス

教授　髙木晴夫

筑波大学大学研究センター客員研究員、ケースメソッド教育研究所代表　竹内伸一

今年度に開講される本科目は、例年どおりの大学院博士課程科目（自由科目）であると同時に、2004 年度経済産業省 MOT 事業の実証授業としても行う。したがって本年度は、約 20 名の本学修士･博士課程の学生に加えて、実証授業に参加協力をして下さる約 15 名の学外者を迎えてクラスを構成する。

１．目的

慶應義塾の鳥居泰彦前塾長はケースメソッドによる討論形式の授業の重要性について次のように述べている。「教育は受け身であってはなりません。学生は自ら学ぶのであって、教育は自分でするものです。自ら積極的な意思を持って、自らの個性を見いだし、確立し、自分に一番必要な生き方を見定めていく作業が必要になります。これは他人まかせの受け身ではできません。だから、教育は自分でするものです。では、自分で学ばねばならない学生に向けて、教師は何をすべきでしょうか。学者として研鑽した知識を学生に授けることは重要です。しかしそれだけで教師として真になすべきことのすべてをしたことにはなりません。講義した知識が、学生の主体性と積極性によって彼らの叡智となるようにすることこそ、本来のものです。ケースメソッドによる討論形式の授業は、これを目指しています。ケースメソッドでは、教師も学生も『学びの共同体』をつくるのであり、自ら考え、責任ある発言をし、討論することで単なる知識を高度な叡智として獲得しようとします。」

本科目では、教師として「真になすべきこと」を遂行するために必要な授業方法の獲得と、その向上を目的としている。

２．本科目の特徴と授業の内容構成

本科目の特徴は、６回の会合を通してディスカッション授業運営の「場数を踏む」機会を設けていることである。幸いにして本科目には、例年、ケースメソッドによるディスカッション授業の運営スキルを身につけたいと願う履修者が、学内外から数多く集ってくれる。履修者はときに自らがディスカッションリーダーとなり、練習相手を務めてくれる仲間によって磨かれていく。このような訓練環境は容易には得られない。本科目は志を同じくした履修者たちが同じ場所に集うからこそ成立する。この教室で実践知としてのディスカッションリード技術を積み上げ、同時にその習得を支えるための知識を向上させながら、ディスカッションリーダーとしての姿勢・態度を育むことを目指す。

したがって、本科目のカリキュラムの中心には「ディスカッションリード演習」を置き、授業運営に必要な実践知と身体能力を獲得するための訓練環境をまず整える。この中核的訓練を支えるために、ケースメソッド教育に関する周辺知識、理論知識を整理する「レクチャー」の時間も毎会合設ける。また、「ビデオ＆スタディ」と名付けたセッションを毎会合設け、授業運営スキルの高まりに合わせて履修者間で議論しておくべきイシューについても順次議論していく場を用意した。

毎回の時間配分はおおむね次のとおり（第１会合と第６会合は変則スケジュールで行う）

１０：３０～１１：３０	レクチャー
１１：３０～１３：００	ディスカッションリード演習（AM の部）
１３：００～１４：００	昼休み
１４：００～１５：３０	ディスカッションリード演習（PM の部）
１５：３０～１６：３０	ビデオ＆スタディ
１６：３０～１７：００	フィードバック、Ｑ＆Ａ

３．履修、および参加対象者

第一に、経営教育をケースメソッドで行うための準備が必要な人である。慶應義塾大学ビジネススクールではケースメソッドを授業方法の中核に据えているため、博士課程修了者が教壇に立つ場合、ごく自然にケースメソッドで教えることが期待される。また、大学等の教育機関で教える教師、およびセミナー等で教える講師の履修を歓迎する。

第二には、ケースメソッドで教える教育を企画・維持する立場にいる人である。ケースメソッドで可能になる学びと、その水先案内人となるディスカッションリーダーの育成プ

ロセスが、本科目により概観できるだろう。

第三には、ＭＢＡ課程をケースメソッドで学び、卒業後にその学びのメカニズムを企業等で再現したいと考える人である。本科目で扱う内容は、直接的には教育研修場面での活用性に富むが、ディスカッションリードのスキルとは、多様な人材を束ねて彼らの自律性を引き出すべきビジネスリーダーとしての資質と共通する。本科目では、授業の内容をリーダーシップに転用する文脈を重視している。

４．日程

次の６会合とする。各回とも１０：３０開始、１７：００終了である。各回とも全員が必ず出席すること。

第１会合　　１０月　２日（土）
第２会合　　１０月１６日（土）
第３会合　　１０月３０日（土）
第４会合　　１１月１３日（土）
第５会合　　１１月２７日（土）
第６会合　　１２月１１日（土）

５．場所

ＫＢＳ教室棟　１１番教室（予定）

６．教材

教科書：「ケースメソッド実践原理」
L. B. バーンズ他著，高木晴夫訳，ダイヤモンド社，1997
一般書店から注文できる。参加者各自で書店よりお求め下さい。

別配布ケース／資料：(その教材が使用される会合)

リーディング「ケースメソッドによる経営能力の育成」(①)
リーディング「理論知識と実践知識」(NEW) (①)

ハンドアウト「ソクラテスメソッド」(NEW)（①）
リーディング「ケースメソッドによる討論授業－価値観とスキルー」（①）
リーディング「ケースメソッド授業での討論の振り付け」（①）
リーディング「初めてディスカッションリードを行う教師の胸中」(NEW)（①）
ケース「高倉銀行蒲田支店」（①）
リーディング「続･ケースメソッドによる経営能力の育成」(NEW)（①当日配布）

リーディング「知識を入手するプロセスで身に付けたもの」(NEW)（②）
リーディング「議論を通して得た仲間」(NEW)（②）
ケース「噛み砕いて教えてもらえるのも魅力です」(NEW)（②）
ケース「今日の授業に失望しています！新任講師田中恵(A)」（②）

リーディング「ディスカッション授業参加者の期待と不安」(NEW)（③）
リーディング「ゼネラルマネジメント養成とケースメソッド」(NEW)（③当日配布）
ケース「日本人留学生 田中功一」（③）
ケース「クラス発言の裏事情」(NEW)（③）

リーディング「ケースメソッド講師になること」(NEW)（④）
ケース「どんなギャップが出てくるのか楽しみです」(NEW)（④当日配布）
ケース「ベンチャー電子工業株式会社」（④）

リーディング「ブレヒトの教育劇」(NEW)（⑤）
リーディング「非指示的に教えるということ」(NEW)（⑤）
ケース「ＡＢＣコンサルティング（B)」（⑤）
ケース「この授業は難しすぎます」(NEW)（⑤）

リーディング「はじめてのケースライティング」(NEW)（⑥）
ケース「はじめて取り入れたケースメソッドによる自社研修」(NEW)（⑥）

ケース「住友電気工業株式会社（C)」（①～⑥）

これらは履修者の個人メールボックスに配付するか、授業中に配布する。
その他にも、随時 教室にて配布することがある。

７．授業準備ノート

次項の授業内容にある「ディスカッションリード演習」について、次のように準備する。第１回会合で以後の７回分のディスカッションリーダー（講師役）７名を決める。ディスカッションリーダーになった者は指定されたケースにつき、授業で討議する設問を作成して、十分の余裕日数を持って受講者役の者に知らせる。このために活用する電子メールアドレスのリストを第１会合で作成する。

ディスカッションリーダーを担当することになった者は同時に、その設問を作成した意図、その設問を使ってケースを討議することのねらい、討議をすることでどのような学びをクラスに形成しようとするのか、「ディスカッションリード演習」のクラス討議時間約 30～60 分をどのように使うか、などを授業準備ノートとして作成する。

また受講者役の者は事前に与えられる設問をもとにケースを読み、クラス討議で自分が発言する内容を授業準備ノートとして準備する。授業準備ノートは手書きのラフなものでかまわない。分量的にはＡ４で１～２枚程度（これより多くてもよい）。日付、ケース名、氏名を明記のこと。各回の授業終了時に教卓に提出する。これらは早い時期にチェックして各自のメールボックスに返却する。

第４会合は、参加者による「ディスカッションリード演習」ではないが、授業準備ノートを提出すること。

８．授業内容

第１会合　１０月２日（土）10：30 開始

レクチャー	：ケースメソッドを理解する	
ディスカッション授業デモ	：ケース「高倉銀行蒲田支店」（竹内）	以降（内）は運営者
ビデオ＆スタディ	：ディスカッションをスタートさせる	

第２会合　１０月１６日（土）10：30 開始

レクチャー	：討議から学ぶことの価値を考える
ディスカッションリード演習	：ケース「噛み砕いて教えてもらえるのも魅力です」(参加者による運営)
	：ケース「今日の授業に失望しています！」(参加者による運営)
ビデオ＆スタディ	：理想的なディスカッションの状態
	：ディスカッションを終わらせる

第３会合　１０月３０日（土）10：30 開始

レクチャー　：参加者を理解する

ディスカッションリード演習　：ケース「日本人留学生 田中功一」(参加者による運営)

：ケース「クラス発言の裏事情」(参加者による運営)

ビデオ＆スタディ　：ディスカッション授業における反面教師

第４会合　１１月１３日（土）10：30 開始

レクチャー　：学びの共同体を築く

ディスカッション授業デモ　：ケース「ベンチャー電子工業株式会社」（高木）

ビデオ＆スタディ　：挙手と発言を適切に扱う

：クラスを学びの共同体に向かわせるために討議に介入する

第５会合　１１月２７日（土）10：30 開始

レクチャー　：非指示的に教える

ディスカッションリード演習　：ケース「ＡＢＣコンサルティング(B)」(参加者による運営)

：ケース「この授業は難しすぎます」(参加者による運営)

第６会合　１２月１１日（土）10：30 開始

レクチャー　：ケースライティング

ディスカッションリード演習　：ケース「はじめて取り入れたケースメソッドによる自社研修」(参加者による運営)

第２会合のディスカッションリード演習では 30 分程度のクラス討議を、第３および第５会合では 45 分程度のクラス討議を行ってディスカッションリードの練習を重ね、最後の第６会合では少し長めの時間(約 60 分)のクラス討議に挑戦する予定。

９．成績（学内履修者のみ）

成績は次の２つの部分より構成する。第１の部分は、第２～６会合で行う「ディスカッションリード演習」（第４会合のみディスカッション授業デモ）に参加するための準備ノートの提出による。授業準備ノートは７項に説明した通り。全８回分が提出されていれば成績として「Ｂ」を保証する。

成績を構成する第２の部分は、希望するならば、期末レポートの意味合いで「ケース」を書いて提出する。具体的には、教科書に掲載されているような種類の授業の様子を描いたケースを作成する。受講生が、講師あるいは受講生として、実際に経験した授業の様子でよい。ケースを書くにあたっては、教科書第３部第１章(P. 621)の「自分のため

にケースを作成する」が参考になる。期末レポートとしてケースが提出された場合には第１の部分の成績に必ず上積みされる。提出期間は１２月６−１１日。提出場所はＫＢＳ事務室（執務時間内）。当日必着の郵送でもよい。到着の確実性が維持できないので電子メールでの提出は認めない。

このケースは次年度以降の授業で活用することを目指し、同時にそれを蓄積することで日本版の「ケースメソッド実践原理」を出版することを目指す。

その他のご案内

現在、本科目と関連するケースメソッド教授法研究プロジェクトが進行中であり、そこではリーディング資料、ショートケース、およびビデオクリッピング教材の開発が進んでいます。新しい教材が開発され次第、本科目では積極的に活用していく予定ですので、カリキュラムは流動的です。授業当日までに内容に変更が発生する場合は、履修者には事前に連絡いたします。

授業内容および使用教材の詳細については、この WEB 上のシラバスを都度更新していきますので、定期的にウォッチしていただければ幸いです。

以上

2004/06/23 更新
2004/07/20 更新
2004/09/09 更新
2004/09/29 更新
2004/10/01 更新
2004/10/29 更新
2004/11/12 更新